

2025年度

学校名 横浜市立鳥が丘小学校

対象学年 第6学年

① 学習指導案

プログラム	No.11「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全80時間)	百花繚乱べらぼうプロジェクト ～学校や地域に感謝と笑顔の花を咲かせよう
学習のねらい	これまでお世話になった学校や地域の方々の思いを知るとともに、最高学年として自分たちができることについて考え、その思いを笑顔で伝えたり、感謝の形に表したりする活動を通して、学校や地域の一員としてより良く生きようと活動しようとする子どもの育成。
学習内容	1 今年度の総合的な学習の時間の計画（地域や学校との関わりの計画・見直し） 2 自分たちの活動を発信するための計画、準備、作成、展示 3 笑顔と感謝の形を実現するための会（仮）の計画と準備 4 感謝の会および祝う会（仮）の開催および学習のまとめ
参考資料 準備品 実施場所等	活動で児童に提案した資料（別紙添付） □感謝の会や祝う会で使用する物品 □学校の敷地改造計画や壁面アートデザインに必要な物等 主な物品）ミニ公園改造計画用の植物の苗 壁面アート用のインク 防水スプレー等 ・本校体育館、校庭、ミニ公園 ・鳥が丘自治会館 ・JICA横浜

② 事業実施報告書詳細（指導案）

学校名 横浜市立鳥が丘小学校

総合的な学習の時間学習指導案

指導者 佐々木 明（桑島 容子・後藤 颯天）

- 1 期 間 令和7年4月～令和8年3月
- 2 学 年 第6学年1～3組 児童104名 ※学年総合（個別級在籍児童含む）
- 3 単 元 名 「百花繚乱べらぼうプロジェクト～学校と地域に感謝と笑顔の花を咲かせよう！」
- 4 単元目標

これまでお世話になった学校や地域の方々の思いを知るとともに、最高学年として自分たちができることについて考え、その思いを笑顔で伝えたり感謝の形に表したりする活動を通して、学校や地域の一員としてより良く生きようと活動することができる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
卒業プロジェクト達成にむけて自分や学校、地域を支えている人やの思いが分かり、それが実際に現れるように仲間や地域との関わりを意識しながら活動を工夫している。	卒業プロジェクトを達成することを意識しながら、学校や地域の方との関わりを通じた活動や計画したり企画したりし、よりよい企画やプロジェクトとなるよう表現している。	よりよい卒業プロジェクトの形の実現を目指し、他者との対話を通して意見の相違点を明らかにしたり、自分たちで整理した目的や見通しを基に、自分の将来の生き方を関連させたりしながら協働して活動を進めようとしている。

6 単元構想（総合70時間構想）＋国語、音楽、図工、体育（＋10時間程度）合計80時間

第1～10時 今年度の総合の計画を立てよう（「材」を立ち上げよう）

【学習活動】

- ・これまでの総合や6年間の学習を振り返り、最後の1年、自分たちができことについて意見を出す
- ・学年目標「百花繚乱」を実現するための具体的なゴールや年間活動計画を立てる。

第11～30時 「地域や他校に魅力発信、自分たちの取組を紹介しよう」

- ・昨年度関わった地域の人との新たなつながりや関わりを広げる取組を考える。
- ・「修学旅行」で訪れた日光のよさや世界遺産の魅力を伝え、地域や保護者の方に、リーフレットや墨絵にまとめて展示し、発信する。

第31～40時 新たな「笑顔と感謝」を伝える取組について話し合い、計画する。

- ・「もっと地域の方や保護者に、感謝と笑顔を伝えられる取組はできないか考える。
- ・いつ、どこで、だれに、どんなことでお世話になったのか考え、具体的な形や取組へとしていく。

第41～75時 「感謝の会」「祝う会」を計画し、それに向けて準備をし、実行する

- ・登下校や地域の行事、運動会や学習でお世話になった方々をおもてなしして、感謝と笑顔を伝える会を開こう。
- ・学校の敷地内で、自分たちの思いを込めたアートや花壇を作成し、地域の人にも「笑顔」と「感謝」を伝えられるような何かを残そう。

第41～75時 学習のまとめと振り返りを行う

- ・在校生や地域の方に、自分たちが作成した内容を紹介するものを作り、発信する。
- ・学習のまとめや振り返りを行う。

7 活動の流れ実際に作成した（完成した）ものの写真（別紙資料添付）

※今年度、学校の教育活動における児童の撮影等に関する規制が厳しくなりましたのでできるだけ、顔が映らないようなものや、個人が特定できないものを中心に資料を添付します。何卒ご了承ください。

【関わった企業や地域の方からの反応】

- ・昨年度ソーラン節の法被と図工の作品を展示してもらったのもよかったが、今回の墨絵と法被もとてもよかった。修学旅行がとても楽しいと思えるような内容のリーフレット、レベルの高い墨絵もとても素晴らしかった。もっとたくさんの方にも見てもらいたいし、学校の様子がよく分かって、鳥が丘のまちには、こんなすばらしい子どもたちが済んでいるんだなということがわかった。（学援隊・鳥が丘自治会館管理者 高橋さん 鳥が丘ソーラン 佐野さんなど）
- ・鳥が丘小の校庭にはたくさんの木や花があってすてきななので、もっと生き物や鳥が集まってくるような「ミニ公園」となるようにみんな考えた内容の花壇に少しお力を貸してお手伝いをさせていただきました。木や花は生きているので、学校や地域の方、みんなでこの素晴らしいミニ公園を守って自然を大切にして、みんなから愛される学校に公園となるようにしてください。（ミニ公園改造計画でお手伝いしてくれた企業の 造園部長 佐藤さん）
- ・みんながつくってくれた壁面アート飾り、出し物、様々な発表を通して、感謝の気持ちや笑顔が本当に伝わってきました。体育館はなくなってしまうかもしれませんが、みんなの思いがいつまでも続くようにこれからも学校や地域でみんなのことを見守っていきます。  
（学援隊感謝の会に来ていただいたみなさんや祝う会を支えてくれた地域の方々）

### ③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>①地域との関わりを広げる 昨年度5年生での総合での関わりや、45周年での関わりを通して広げた地域や保護者とのつながりを大切に、今年度も地域の施設や学校の敷地の中にある、「材」を見つけて活動を計画し進めたこと。</p> <p>②「創立50周年に向けて「ESD（ともに未来をつくる）学校づくりを目指した取組 本校では、創立50周年まであと4年であることを見据え、「ともに未来をつくる」学校づくりを推進する取組を今年度より始めた。その一つとして学校の施設を見直し、再改造できる場所や体育館改修工事という機会を生かした取組につなげることで児童が学校や地域のよさや魅力を再確認しながら活動に取り組めるようにした。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>①当初の計画通りに進むことが難しく、実現に向けて思った以上に期間がかかってしまったこと。暑さによる熱中症対策や感染症の流行で、外での活動や人数が思うように集まらずに、時間がかかってしまった点。</p> <p>②子どもが考えた内容を実現することの難しさ。学校や地域のためにこうしたいという思いや願いがあ反面、安全上の観点や予算や人数等の関係をあり、すべての活動を実現することの難しさを感じた点。</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>最初は、学校と地域とのつながりや連携を意識して取り組むことと、自分たちがやりたいことを結び付けながら、具体的にイメージをもって、活動に取り組む児童が少なかったが、活動期間が進むにつれて、それぞれ役割を意識して取り組むことができていくように思えた。大きく3つのグループに分けて取り組んだプロジェクトに関しても活動後半はグループの中心メンバーが主体となり、活動計画や内容を考えることで教師主導ではなく、こども主体の学びを実現することにつながる児童の姿や様子が見られた。「もっとこうしたい」「卒業してもやりたい」といった素直な反応も振り返りでは見られた。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>今回3クラス学年総合で進めていったことで、計画当初からゴールや方向性を共通理解しながら進めることができた。また、学年担任以外の管理職や関係する先生方、および地域の方等に自分たちの活動のねらいや意図を教師から予め伝え、それにともなって子どもと一緒に活動を進めていくことで教師自身も実際に地域との関わりを広げることや新たな企業と連携して活動を進めることにつながり活動の幅を広げることにつながったといえる。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>今年度からの取組で始めたことを次年度以降につなげていき、継続して取り組んでいきたいと考える。今回対象児童は6年生ということもあり、卒業をしてしまうが来年度以降の在校生や今後も関わりのある地域とのつながりを意識し、「地域で、地域の一員として地域のために」行動ができる児童の育成につなげていくことに引き続き取り組んでいく必要がある。ゆえに今年度の取組をスタートして次年度以降に引継ぎを行い、創立50周年への取組を一層充実していく必要があると考える。</p>